

平成30年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 平成30年7月5日（木）午後6時～
- 会場 音別町コミュニティセンター
- 出席者 25人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

○市立釧路総合病院新棟建設の延期について

○つながる まち・ひと・みらい ひがし北海道の拠点都市・釧路

- ・釧路市の課題
- ・まちづくり基本構想
 - 目指すべきまちづくり
 - 重点戦略
 - 域内循環
 - 域内連関
- ・平成30年度の予算
- ・まちの活力を高める地域経済の活性化
- ・地域経済を担う人材育成
- ・経済活動を支える都市機能向上

●意見交換

【参加者A】

私は、「地方創生」をテーマにし、音別地区をいかに活性化させるかを考え、いろいろな取り組みを行っております。現在は、フキの栽培を行っております。今までは、フキというのは自生しているのが皆さんのイメージでしたが、現在は枯渇しております。というのも、私はフキの直売を行っておりますが、結構皆さん買いに来ます。

また、フキというのはいろいろな使い道があります。フキの葉っぱを成分分析に出しているのですが、ポリフェノールが含まれていたり、カラマツと同じ成分が含まれていたりするので、アロマオイルにも使えるかもしれないようです。

それから、高さ2mほどになるフキ畑は、下から見上げると本当に神秘的なものです。東京や大阪の方がびっくりして、フキをとって回して遊んだり、写真を撮ったりと、感動しておりました。

私たちは、おそらく数年後には無農薬のフキの栽培ができると考えています。そうすると、雑草取りや種まき、フキ刈りなどで人手がかかります。この仕事は、引きこもりの方たちにはすごく良い仕事になると思います。

今後のフキの販売を考えたときに、例えば、昔の音別町行政センターを、フキの佃煮やお菓子、富貴紙などを製造できるような工房にできればいいな

と考えています。その点について、市の協力を得たいと思います。それが、音別の活性化につながっていくと思います。

もう1点、市立高等看護学院を建て替えるのはなぜですか。現在、18歳人口は減少しています。また、釧路市内には4校の看護学校があります。その中には定員割れのところもあります。苫小牧では、昔、市立の看護学校があったのですが、経営が大変だということで、苫小牧医師会に任せたと聞いております。そのような方法をとれば財政的にも大分楽になるのではないかと思います。

【市長】

市立高等看護学院については、現在建設を進めているところであります。定員は30名のままで、しっかりと環境を整えていこうというものであります。当然、市立釧路総合病院に看護師の方が来てほしいという希望を持ちながら、進めているところです。併せて、来年度から授業料等も改定し、アップする予定です。そのかわり、授業内容をしっかりと充実していこうと考えているところであります。確かに、釧路市内に4校ありますが、当面の間は、学習環境をしっかりと整備していこうと進めているものでありますので、ご理解いただければと思います。

フキの工房については、本当に素晴らしいことだなと思っております。市内でも、民間の空き店舗を利用して、1階をカフェにし、2階ではスリッパを作るなどをしています。音別地区の中で、どのような形で行っていきけるかについては、また検討していきたいと考えております。皆さんと行政体が一緒になって進めていければと考えておりますので、ご相談いただければと思います。

【参加者B】

医療費についてです。子どもの医療費については、どのようになっていますか。

【市長】

医療費については、来年4月から、小学校に入るまでは無料となります。その他、入院に係る費用などは細かく分かれております。

【参加者B】

私は牧場を経営しており、従業員の若い子を雇ったのですが、白糠町在住です。何とか、音別に来ないかと聞いたら、白糠町は中学校かそれぐらいまで医療費が無料らしいです。そのちょっとしたところが、若い人たちにとっては重要なようです。

大塚工場に勤めている人は、もともと音別に住んでいたのですが、医療費が無料なので白糠町に移りました。

釧路市内全体を無料化にするのは難しいかもしれませんが、音別の学校は複式学級になったことも考えると、阿寒・音別と旧釧路市内は分けて考えて、若い人たちが地域に定着してくれるよう、制度を優遇するのはできないでし

ようか。

【市長】

対象者が少ないと、いろいろなことができるものだと思います。

やはり、市というのは一定程度規模が大きいので、何かやるにしても費用が大きくなってしまいます。ただ、医療関係等も含め釧路市にすることが他市と比べて、マイナスの環境にはしません。

いろいろな地域の出先の方が釧路にいます。その方が、家族を連れてくるかどうかの判断は「医療環境」「教育環境」の2点です。教育に関して、昨年からは始まったばかりの「総合教育会議」に、私も入りました。幼児教育、学校教育など、しっかりと環境を整えていっております。そのサービスの質の高さだけでなく、愛着を持ってもらえるように取り組んでいくことで、それが地方創生につながっていくのだと思います。

音別地区の優位性を活かして、いろいろなことに取り組んでいければというのが、私の願いでございます。

【参加者C】

1点目は、市立釧路総合病院の新棟建設の延期についてです。今後は、相手方を提訴して裁判で争うとのことを新聞報道で見ました。この目的は何でしょうか。

業者は成果品ができていると主張していますので、なかなか難しい裁判になるのではないかなと個人的に思っています。ぜひ、頑張っていたきたいと思います。今の業者は、病院の建設に長けていると聞いていますので、後で、最初の方が良かったなという風にならないように、今度は落札業者とコミュニケーションをよくして、進めていただきたいと思います。

2点目です。6月20日の新聞に突然、尺別駅が廃止されるという情報がありました。これについては、釧路市に事前の連絡があったのかなかったのか。もしあったなら、その辺の経緯をお聞かせください。

尺別の駅は、昭和5年4月に駅に昇格したもので、88年の伝統ある駅です。尺別炭鉱があるときは石炭の運搬とか、釧路へ高校生が通うなどして、大変賑わった釧路管内でも有数の駅でありました。ですが、尺別炭鉱が閉山になって、利用者がほとんどいなくなったということで、現在は1日あたり1人以下の利用者とのことです。駅の周辺には、2軒家がありますが、2軒とも高齢者で車がありません。たまにJRを利用していますので、駅が廃止になる際には、住民の足の便について、市の方でもいろいろ検討してもらえればと思っています。

また、JRの職員から尺別の住民に説明会を設けていただきたいです。そして、最終列車が通る際には、最後は何かセレモニーみたいなものも、JRの立場でやっていただきたいなと思っておりますので、市からJRにお願いしていただけないでしょうか。

【市長】

市立釧路総合病院に関する裁判の目的についてです。実施設計の前払金等を返してほしいということと、併せて、契約全体に対する違約金を相手方に請求をしましたが、それが支払われないということですので、それで裁判に踏み切るということになったものです。

相手方は、きちんとしている会社であると認識しているのですが、どうして私たちにとって重要な市立釧路総合病院に対して、そのようなことをするのかは私は分からない、といった気持ちであります。納期は、簡単にずらしてよいものだと思っております。納期が遅れることで、どのように全体に影響するかが分かっているからです。

我々が事業を行う全てのお金は皆さんの税金です。故に、きちんとチェックをしながら、全部説明をしながら、確認をしながら責任をもってやっていくのが我々の仕事だと考えております。納期があつて、工期があつて、併せて約束したことがあるのです。それを、いとも簡単に遅らせるということは、市立病院の重さを知らないのではないかと感じます。しかし、先ほどいった基本設計については無駄にしたくないので、これを活かし、無駄を最低限に抑えていければと思っております。

【音別町行政センター長】

今般、JRから、正式に5月17日に、尺別駅の廃止を検討するという通知が来たところでございます。具体的な話自体は、昨年度より口頭で、廃止を検討している旨お聞きしているところであります。直別駅と尺別駅の廃止検討ということではありますが、両駅の過去5年間の1日あたりの利用者が1名以下であること、また、平成29年度からは定期券も発行されていないということ踏まえて、廃止を検討しているということでありました。

市といたしましては、自家用車を持たない高齢者の方などへの影響を鑑みたと、存続をJRにお願いしてきているところでありますが、このたび正式に廃止を検討するという通知がなされたということであり、今後は、JRの方から、正式に廃止をしたいという内容の通知が来るとの事を聞いております。

住民説明会については、私たちの方からJRへお願いをしているところでありますし、JRの方からも要望があればお応えする旨聞いております。正式な通知後に、住民の方々に説明をしていただければと考えております。

廃止の際のセレモニーについて、地域住民の方にとっては大切な駅ですので、JR側には要望を出していきたいと考えております。

【参加者D】

1点目は、音別町の将来の人口動態のデータがあれば、教えてください。当然、音別町は高齢者の方が多いわけではありますが、10年、15年先にかなりの数の高齢者の方が亡くなっていくと思います。そうすると、空き家ならびに土地の所有者が不明になってくると思います。いろいろな不都合が生じてくるのではないかと思います。

2点目です。今回、私は自宅を建てるために法務局に行って登記をしました。そうすると、番地は違いましたが、行政センターと、私の家と、一軒の空き家と、他3軒が同じ図の中にありました。市民の財産ですので、きちんと確認していただきたいと思います。

3点目は、行政センターでは市の旗と国旗を掲揚しています。不幸があったときには、きちんと半旗にしています。以前は24時間掲げていたのですが、旗が破れるなどの問題があるので、今は旗を下げてポールにひもでぐるぐる巻きにしています。ぜひきちんとした取扱いをしていただきたい。

4点目は、北方領土についてです。以前、NHKに対して、北方領土の天気予報をやってほしいと提案しました。住民に対しても非常に有効ですし、日本の墓参団の方々にとっても天気予報が分かれば非常に良いと思います。

釧路市では労働人口が減って大変な状況ですので、ぜひ、北方領土の子どもたちを釧路に招いて教育をして、できれば釧路で働いていただければいいなと思います。釧路工業高等専門学校などは、かなりの数の外国の学生さんが来ていますので、相談すれば受け入れてくれる余地はあるのではないかと思います。工業高校や商業高校など、釧路市全域でタイアップしてはどうでしょうか。北方領土問題の解決には、地元同士の交流が必要だと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

【市長】

登記の件については、現在の状況をお調べして、報告させていただきたいと思います。

国旗、市旗の取り扱いについては、おっしゃる通りだと思っております。取り扱いにそこまであるかどうかは別としまして、姿勢としてどういった対応をとるのかということだと思いますので、ご指摘を踏まえまして、しっかりと対応をしていきたいと思います。

北方領土については、共同経済活動ということ、いろいろな取り組みがまだスタートの段階だと思います。釧路市の中でどのような取り組みを行っていきけるかというのは、根室1市4町を含めた打ち合わせの中でとなっております。そのような中でも、北方領土から人が来たときに、ホームステイ等行っているところでもあります。さらに、どんな形でできるのか検討していきたいと思います。釧路工業高等専門学校などは、協定を結んで、例えば北欧だとかタイとかと定期的に進めていると思います。釧路公立大学は韓国や台湾などと定期的に交換留学をしています。どのような形の中で、釧路の教育機関と北方領土の部分を結びつけるかというのは、いろいろな部分で相談していかないと、現状の部分ではお答えするのが難しいかなと思います。

【総合政策部長】

市では、地方創生の取組みで全国どこの市町村にもあるものなのですが、釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略で計画人口をたてて、取組みをしているものであります。その中で2010年（平成22年）の人口である18万1,169人が将来どうなるかというのを、人口ビジョンとして推計し

ております。それが、2040年（平成52年）で、10万6,088人になるというものです。ただし、総合戦略の中で、そうならないための将来目標としての人口も設定しています。今お話のあった地区別の人口ですと、音別地区では1,200人ほどになるという人口推計に対して、1,600人の目標をたてています。阿寒地区では2,900人ほどになるという人口推計に対して、3,700人の目標をたてています。これら目標人口に向け、市ではまち・ひと・しごと地方総合戦略のさまざまな取り組みをしています。一例では長期滞在を発展させた移住政策に取り組むとともに、若者の移住についてはテレワークやノマドワークの取り組みを行い、住みたいと思うまちづくりを進めていきたいと思ひます。

【都市整備部長】

空き家についてです。空き家は、人口減少や少子高齢化により、今後も増える見込みで、非常に難しい問題となっています。全国でも相当増えてきております。市では、1件30万円までの補助制度を設けており、昨年は8件に補助し、今年は14件に補助を予定しております。ただこれは、自らが除却したいという意思を持っている方に対しては非常に有効ですが、すでに空き家となっていて、権利関係が複雑になっていたり、それを継承する方がいなかったりする方にとっては、全く効果がないものであります。多い事例として、市では空き家の保全をしてくださという旨の文書を送っておりますが、全く反応がない。反応があっても権利関係が複雑である。抵当権が複雑である。ここが解決できないというのが大きな課題となっています。この課題は、多くの自治体も同じです。国、北海道に、権利関係をうまく整理する方法を、他の自治体さんと相談しながら国に要望していくなど、これからも空き家対策を進めていきたいと思ひます。

【参加者E】

平成の大合併は何だったのかと思ひます。行政も4農協も合併しました。そうすると、音別は飛び地で音別だけ置き去りにされているような感じがします。

この地域として、皆さんが生きがいを持てるような政策を、一緒になって検討していただきたいと思ひます。市として、この地域の一次産業を含めて、この地域をどう活性化させるかということを考えていただきたいと思ひます。

【市長】

この地域を活かしていくため、行政としてしっかり取り組んでいきたいと思ひます。音別で酪農を指導してから、皆根釧台地に行ったということで、音別は根釧酪農のメッカであります。このようなことなどを踏まえた上で、厳しい環境の中ではありますけど、一緒になっていろいろなことを進めていければと思ひます。